

■■メールマガジン「静岡県防災」第11号■■

美しき伊豆の大地と海に眠る火山群！

◆平成元年の海底火山噴火

今から33年前の平成元年7月13日、伊東市沖で海底火山が噴火しました。その様子はテレビニュースの生中継で放映されましたので、憶えている方もいるかもしれません。

平成になって初めての年、伊東市周辺では6月末から2万回を超える群発地震が発生していました。

噴火の数日前から、細かな縦揺れが続き、当時小学生だった県職員Sさんは、自宅の2階に兄弟で過ごしていたところ、1階の家族が兄弟で暴れていると勘違いし「ドタバタ騒ぐな」と注意されたことがあったそうです。

7月11日には、伊東市内で火山性微動が観測され、13日に海底噴火が発生しました。この噴火により他の市町に避難した人もいたそうです。後に、この海底火山は「手石海丘（ていしかいきゅう）」と命名されました。

手石海丘をはじめ、小室山、伊東市街などが含まれる地域は「伊豆東部火山群」として、「噴火の影響が及ぶ可能性がある範囲」に設定されています。

◆噴火警戒レベル

噴火に伴って生命に危険を及ぼす火山現象（大きな噴石、火砕流など）の発生が予想される場合は、気象庁が噴火警戒レベル（以下「レベル」という）を付した「噴火警報」を発表して、警戒や避難を呼びかけることになっています。

- ・群発地震の発生など活発な火山活動が予測された場合、「地震活動の見通しに関する情報」を発表します。
- ・噴火の可能性が高まった場合、レベル4またはレベル5の噴火警報を発表します。
- ・レベル4となった場合は、警戒が必要な地域では、高齢者等の避難行動要支援者は避難開始、住民は避難の準備等が必要です。
- ・レベル5となった場合は、危険な地域からの全員避難が必要です。

◆伊豆東部火山群の特性

伊豆東部火山群では、噴火が居住地域の直下や近傍で起こる可能性があるため、レベル2 やレベル3（噴火口が特定された場合などに発表されるレベル）を経ないで、レベル1からいきなりレベル4以上の噴火警報が発表されることとなっています。

平常時から正しい知識の習得に努め、適切な火山防災対策を実践しましょう！

○最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでご覧になれます。

https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/level/PDF/level_316.pdf

○伊豆半島ジオパークミュージアム「ジオリア」

<https://georia.izugeopark.org/>